



大四小だより

練馬区立大泉第四小学校

令和5年度 12月号

校長 梅津 靖子

創意工夫の手作り展覧会

副校長 山口 真



季節外れの温かい気候と冷え込む気候が繰り返す日々ですが、日暮れが早い季節となりました。そんな中、11月24日・25日に行われた展覧会は、多くの保護者の皆様、地域の皆様にご鑑賞いただき、大盛況の会となりました。

会場内には、子供たちの思いのこもった作品が並び、飾られた体育館等の会場はまさに「大四美術館」となりました。今回の展覧会のテーマは、「おおよんもりもり Art forest」でした。そのテーマのとおり、子供たちが伸び伸びと自身の思いや発想、工夫を作品に表現することを楽しむ。そして、友達との交流・鑑賞の中で、互いを認め合い、自分の作品も友達

の作品も大切にしよう心を育む。それらが会場に溢れ、まさに「芸術の森」となったと思います。

今回は、それぞれの学年が平面、立体作品を仕上げるだけでなく、様々な形で異学年交流が行われました。同じ題材を上級の学年が下の学年に教えながらつくる。また、当日は作品と一緒に遊ぶという活動です。また、会場を彩る装飾品も異学年で作成しました。作品や装飾、交流活動、いたるところで創意工夫を凝らした手作り感溢れる展覧会となりました。

また、この展覧会を開催するに当たり、高学年が支え、盛り上げました。6年生は「子供学芸員」として、鑑賞する下級生、お越しいただいた保護者や地域の方に、各学年の作品について説明をしました。そのために、事前に各学年に作品づくりについてインタビューをし、何度も説明の練習を重ねました。展覧会当日には、言葉遣いに気を付け、丁寧に対応していました。保護者や地域の方々からは、「丁寧な説明ありがとうございました。」「6年生の姿に感動しました。」というお言葉をいただきました。また、下級生たちは、鑑賞の際に6年生の子供学芸員から教わった姿勢で、友達や他学年の作品のよさを認めることができたと感じます。

それから会場の準備を6年生が、片付けを5年生が行いました。任された仕事だけでなく、自分からすすんで仕事をこなす姿が頼もしかったです。6年生としては、残りの学校生活で限られた行事となる展覧会を最高学年として成功させたい。また、5年生からは、6年生からバトンを引き継ぎ、次は自分たちが学校を牽引する最高学年になるのだと強い意識が感じられました。学校は、全ての学年の一人一人の子供たちがかがやく場としたいと考えています。



高学年がよい手本を示すと下学年にも浸透し、学校がより良くなっていくことを改めて感じることができました。低学年でも高学年でも子供たちは、人から認められることで心が豊かになり、自分に自信をもち、人を大切にすることができます。今回の展覧会は、子供間で認め合い、保護者や地域の方に褒めていただくことで、大きな充実感と自信をもった機会になったと思います。多くのご参観ありがとうございました。

さて、12月は陰暦（旧暦）で師走「しわす、しはす」と呼ばれます。その由来は、師匠である僧侶が、お経をあげるために東西を馳せる月という意味の「師馳す（しはす）」だということです。つまり、普段落ち着いている僧侶でさえ走り回るくらい忙しい月という意味になります。そのとおり12月は駆けるように過ぎゆくと思われませんが、各学年で学期・年のまとめを一日一日確実に行っていきます。ご家庭でも次の目標をしっかりとって新年を迎えることができるように、お子さんへのお声掛け・関わりをお願いいたします。



【お知らせ】 12月29日（金）～1月3日（水）は学校閉庁日となります。学校が施設され、立ち入ることができませんので、ご用のある方はその期間以外にお越しいただくようお願いいたします。また、12月28日（木）、1月4日（木）は学校休務日となり、対応は施設管理員のみとなります。